

野研びより

鳥編 6号

野外生物生態調査研究部 鳥班

2016年11月

サシバ *Butastur indicus*

タカ目タカ科サシバ属

サシバの形態

全長は約47~51cmで、翼を広げた時の大さは103~115cmである¹⁾。ハシボソガラスと同程度の大きさ²⁾で、メスのほうが大きい。

背中側は褐色で、白い眉斑がある。これはメスの方が顕著である¹⁾。喉は白く、中央に黒い縦線があり、頬は灰色である。腹側は白く、胸と腹には褐色の横斑があり、胸の方に横斑が多い¹⁾。メスはオスと比べるとこの横斑が少ない。尾は灰褐色で数本の黒帯がある¹⁾。幼鳥の腹側には黒い縦斑がある。暗色型も見られるが、個体数は少ない。

サシバの生態など

鳴き声は「ピックイー」³⁾で、甲高い声で鳴く。

日本には、九州から本州に夏鳥として渡来し、平地から山地の森林、畑、水田などで生息、繁殖する²⁾。狩りは水田などで行われる。

ヘビやトカゲ、カエルといった両生類や爬虫類を主に食べる。他にも、鳥のヒナやネズミ、セミやバッタといった大型の昆虫類などをエサとする。

羽ばたきはハチクマやトビよりも速く、帆翔時両翼は水平になっている¹⁾。

天気などによっても左右するが、観測される数は30年前より減少しており、2006年国のレッドリストに「絶滅危惧Ⅱ類」として掲載された³⁾。減少した原因としては、農作地の荒廃などにより、生息地がなくなったことと餌をとる場所が減ったことが挙げられる。

サシバの類似種

類似種には、ノスリ (*Buteo buteo*) やオオタカ (*Accipiter gentilis*)、ハチクマ (*Pernis ptilorhynchus*) がいる。サシバと比べて、ノスリは翼の下側に横斑がなく、翼の幅が広く



©2016YAKEN

写真1. サシバ (2015年10月14日宮崎県金御岳にて撮影)

尾が短い。オオタカは尾が長く、翼が短い。ハチクマはサシバよりも大きく、翼の前縁から出ている頭部が長い。また初列風切の先の黒色が目立つ¹⁾。

サシバの渡り

サシバは南西諸島、マレー半島、フィリピン、インドシナなどで越冬する³⁾。そこから3月中旬頃に群れでやって来て、越夏、繁殖する。日本以外の越夏、繁殖する場所としては朝鮮半島、中国北東部、アムール地方南部、ウスリー地方がある⁴⁾。9月中旬から10月の終わり頃にかけて、大きな群れで南へ移動する。渡りの規模は、春より秋の方がはるかに大きい。

渡りの名所には、愛知県伊良湖岬、鹿児島県佐多岬⁵⁾、宮崎県金御岳などが挙げられる。金御岳では、10月10日をはさんだ1週間がサシバの渡りのピークである。その頃になると野鳥ファンが集まり、地上も空もにぎやかになる。多数のサシバが上空を飛翔する様子は圧巻である。



©2016YAKEN

写真2. サシバの渡り (2015年10月14日宮崎県金御岳にて撮影)

引用文献

- 1) 高野伸二 (2015) フィールドガイド日本の野鳥, 日本野鳥の会
- 2) 叶内拓哉 (2014) ポケット図鑑日本の鳥 300, 文一総合出版
- 3) NPA法人才オオタカ保護基金 サシバ
http://www.goshawkfund.jp/02_ecology/02.html
- 4) BIRD FAN (野鳥の会) サシバ
<http://www.birdfan.net/pg/kind/ord06/fam0600/spe060012/>
- 5) サシバ-Wikipedia
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B5%E3%82%B7%E3%83%90>